

連続講演会

キューバ大使の発言

われらがアメリカと米州首脳会議

M・A・ラミレス

ラテンアメリカ・カリブ海諸国の変革の時

ラテンアメリカ・カリブ海諸国は、政治的、経済的、社会的に大きな変革の時を迎えています。新旧植民地主義による搾取の共通の歴史と、外国の利益に従属するモデルの押しつけは、国内の開発能力を制限し、我々の諸国民の利益のための地域協力と統合の真の機構を強化することを妨げてきました。この構図の中に、「われらがアメリカ」に対する米国の支配の歴史的な利益と、ラテンアメリカ・カリブ海諸国の統合の正当な願望との間の根本的矛盾を見いだすことができます。

1990年代にワシントンがラテンアメリカ・カリブ海諸国に自らの意思を押しつけるために推進した西半球の機構である米州首脳会議、その第9回会議をめぐる出来事は、我々の大陸の双方の間で増大する和解しがたい矛盾を示すものでした。

この首脳会議の代わりに、ラテンアメリカ・カリブ海諸国の人々と政府は、この広大で豊かな地理を構成しているアクターの必要性和多様性に応える、異なる統合の機構を必要としています。一方、キューバは、米国との統合を望んでいないことを繰り返し表明しています。なぜなら、私たちはシモン・ボリーバルやホセ・マルティから、それが我々の道ではないことを学んでい

るからです。

ALBA 首脳会議（5月 ハバナ）の示した原則

第 21 回 ALBA-TCP（われらがアメリカ諸国ポリバル同盟 = 諸国民貿易協定）首脳会議は、去る 5 月 27 日、ハバナにおいて、連帯、社会正義、協力、経済的補完性の原則に基づき、われらが諸国民の団結の手段としての ALBA を強化すること、ラテンアメリカ・カリブ海諸国共同体（CELAC）が主導する真の地域統合を進めること、ラテンアメリカ・カリブ海の平和地帯宣言の規定を順守することについて、加盟国の決意を改めて確認しました。

その ALBA 首脳会議の結果、われわれの諸国政府は、西半球の帝国主義との関係の変革を実現するための「われらがアメリカ」諸国の要求を支持し、覇権主義的な利益に従ってこの地域を分断しておくための、ラテンアメリカ・カリブ海諸国の人々に対する帝国主義的支配の意図を糾弾しました。また、いわゆる米州首脳会議の独断的、思想的、政治的動機による排除にも反対しました。そのような排他的な会議は、地域的・世界的課題の解決に何ら寄与しないからです。

ロサンゼルス米州首脳会議の失敗

ロサンゼルスでの米州首脳会議の失敗は、私たちの地域の新しい政治的变化と対照的です。ベネズエラ、ニカラグア、キューバの独断的な排除に対するラテンアメリカ・カリブ海諸国の政府の反応は、帝国主義の支配の利益に対する反発が高まっていることを示しています。キューバの場合、アメリカ政府がいくつかの参加の仕方を提示してきましたが、我が国はそれを決然と拒否しました。

合計 20 の代表団が排除に反対し、11 の代表団が米国の対キューバ封鎖を糾弾し、その他の声も我が国がテロ支援国家リストに独断的に含まれることに反対するものでした。これらの例は、米国がもはやラテンアメリカ・カリブ海諸国に対して自らの決定を押し付ける能力がないことを確認するものです。

米州首脳会議の失敗は、相互尊重と主権の平等を基礎として、「われらがアメリカ」の政府とアメリカ政府の間の対話と協力の機構を選択する必要性を示しました。例えば、権威を失墜した米州機構（OAS）は、ヤンキー植民地省とも呼ばれていますが、帝国主義の道具です。2019 年にボリビアで起きたクーデターへの役割と、そこで行われた残虐行為への共犯性は、民衆が進める民主主義の発展に反対するその長い記録の中の最新の恥ずべき事例の一つに過ぎません。

他方、ALBA と CELAC は統合の場であり、その成果は、相違はあっても補完と団結は可能であることを示しています。

モンロー主義と単独行動主義は破たんした

多極化した世界の出現は現実のものとなっています。アメリカ政府は、他の地域内、地域外の関係者を前にして、わが大陸での影響力を失いつつあります。私たちの大陸の国民や政府は、個人的にも集団的にも、世界の他の国民や政府との関係を拡大しています。

米国が宣言したモンロー主義と単独行動主義の行使は、「われらがアメリカ」の国民と政府によって断固として拒否されました。ラテンアメリカ・カリブ海諸国がここ数年、数ヶ月、数日の間に経験した変化は、いかなる種類の外的干渉や押しつけもなしに、団結と地域協力を強化することに新たな希

望をもたらしています。その結果、多様性の中で、すべての国の団結を守ることが改めて必要になっています。

ラテンアメリカの英雄の中で最も普遍的で反帝国主義的なホセ・マルティが述べた予言的な言葉で締めくくりたいと思います。それは、「ラテンアメリカの慎重で良識ある人々の団結は、米国に常設されており、控訴できない法廷において、アメリカ大陸の共和国に対する強制的裁判を行うという米国の企図を打ち破った」というものです。